

復興祈念で、明治40年、高台に建立



しかし、今回大きな被害を受けました



この神社では、毎年神楽が奉納。



雄勝法印神楽は全国的にも有名



やっと、笑顔もみられるようになりました



7月に3度目の雄勝訪問



すでに、震災から4か月経過

・この時期の支援の目的

可能な限りの「医療支援」は継続しながら、地元の人のお話を傾聴し、この地域の復興における課題を整理し、今後の展望をともに考えていくことをこころがけました。

医療相談とリハビリは継続しています



扇風機を回してリハビリです



雄勝湾の日の出です！



7月の水浜港の風景です



5月に、週2日の診療所ができました。



雄勝まごのて診療所と言います。



東京の石井直子先生が開設



神戸在住の画家ピーターさんは



「明石城の堀に映る桜」を描き、



この診療所へ贈りました。



水浜仮設住宅の住人と交流



交流会と銘打って宴会です



震災後、皆でワイワイ飲むのは



初めてかもしれません



全勝旅館のおかみさんは、ホタテや



ウニでもてなしてくれました



震災後のつらい想いもすこしづつ



語れるようになりました



2011年5月から7月の状況

- 雄勝町では、東京の脳外科の開業医である石井先生が、水浜に、日曜日・月曜日、週2日の「まごの手診療所」を5月29日に開所された。⇒今後、常設の診療所へどうつなげていくのか。
- 一方、養殖漁業の復興には、多額の資金が必要で、個人では対応できず、どのように、生活再建、新しい再生・復興の方向性を考えていくのか、問われる状況でした。

教訓一宴会も大切です

- 外から「見ている」人も交えて、今後の、被災地の将来について考えることは大変必要です。
- 地元の人だけでは、「見えない」問題もあります。
- 酒が入ると、「本音」がでできます。これまで、語れなかった「つらいこと」もすこしづつ語れるようになってきました。

それから更に3ヶ月が経ち



10月連休を利用して4度目の雄勝訪問

- 7月の時に、「次回は10月の連休にきます」と約束しました。
- 8月、9月、10月の中で、少しずつ、「復興」への人の動きが見えてきました。
- ⇒合同会社「OH ガッツ」の設立
- ⇒雄勝町仮設診療所の開設
- 阪神大震災の時の復興との違いがはっきりできたように感じました。

阪神大震災の復興との違い

- 大都市圏での震災ではなく、過疎、高齢化が進む地域での震災。
- 日本の人口が減少していく、転換点。
- 日本の財政状況も非常に厳しい。
- 右肩上がりの時代の終焉。
- ⇒従来通りの「復興」では、20年、30年後には、この地域に誰も住む人がいなくなってしまう。
- 日本の国民全員が「直面」している問題。